

令和5年度 学校評価 自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立坂戸小学校
実施日	令和6年2月1日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員全体で、組織的・計画的に取り組んでいる。今年度は創立150周年という節目であり、児童や保護者だけでなく地域の方と共に創立記念行事を実施することができた。 ・年度当初に研修時間をしっかり確保し、目指す学校像について教職員同士が共通理解することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便りやHP等により、よく周知されている。 ・学年便りにより学習の範囲が伝えられ、学習状況がわかる。 ・保護者の評価が高いので、十分に伝わっている。 ・150周年行事の実施もあり、坂小教育のアピールはできた。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・事故やトラブル等に対しては管理職を中心とし、組織的に対応している。職員は、日頃から報告・連絡・相談を行うことができています。 ・緊急事態が発生した都度、全教職員で情報共有をする場を設定し、成果や課題を活かすようにしている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・マメールでの不審者情報等、保護者の間で活用されている。 ・良い実践ができて。事故、トラブルに対し、教員を一人にしない実践はとてもよい。 ・緊急時に如何に対応できるかが重要。その視点からもマニュアルの改善は毎年必要になってくる。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(市共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に働き方改革の会議を実施し、全教職員で効率の良い勤務について改善を図っている。 ・出退勤管理や事務の電子化、学習用端末の活用など、積極的に取り組み、勤務体制の工夫改善を推進している。 ・全職員における毎月の超過勤務時間は確実に減少している。しかし、個人差が大きいのも事実なので、業務の分散化等を推進する必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・削減が難しい中で、一生懸命頑張っている職員を労いたい。 ・会議や研修が多い印象を受ける。業務改善を期待したい。 ・全体的に働き方改革は進められているように感じられる。 ・先生間で時短への意識、放課後時間の使い方に認識のズレを感じます。文言や数字に縛られた表面的な働き方改革ではない。 ・現実には厳しい状況かと思えます。少しでも先生方の負担が減少することを祈っています。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、主体的・対話的で深い学びのある授業をしている。(市共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の授業力向上のために、互いの授業を見合う機会を確保することができた。キャリア段階にあった授業研修を充実させるため、他校の研修会にも積極的に参加できた。 ・子供が夢中になって学習に取り組めるよう、今後も教科の特性を生かした授業づくりを推進する必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの授業を観る研修など、効果的に行われている。 ・机の形態だけでなく、学び合いがより一層深まることを期待している。子供の興味を引き出す工夫をしている。 ・学びに興味関心を持ち深めるためには、対話による協働的な学びは有効だと思う。夢中になれる学びづくりに、先生方一人一人がチャレンジしていくことが大切だと思う。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業や人権感覚育成プログラムの活用等を計画的に行い、豊かな心を育むようにしている。 ・「いじめ撲滅月間」等の取り組みを学校全体で推進している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業だけでなく、教職員の日常の行動が規範となっていることを意識してほしい。 ・先生方のアンケートより、指導に力を込めて実践されていることが伝わった。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。(市共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に挨拶運動に参加できるよう、今年度から全学年に実施期間を設けた。どの学年でも挨拶が増えてきているが、地域でも同じように挨拶ができるよう継続していく必要がある。 ・教職員が児童の手本となって、挨拶や言葉遣い、時間を守ることをより推進していく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の問題で、学校はしっかり取り組んでいると思う。 ・挨拶はいつも課題となっているが、家庭・地域・教職員が見本となることも大切であると思う。校内では、学校外の人に笑顔で挨拶をしている教職員のまわりでは、児童も積極的に挨拶している。 ・教職員が子供の規範となるのが前提である。 ・挨拶は大事であるが、出来ない人が多いと感じる。引き続き取り組んでほしい。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のため積極的に取り組んでいる。(市共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に関連情報や懲戒処分などについて共有しており、少人数で協議できる時間も確保することで自分事として捉えられるようにしている。 ・学年内での情報は共有しているものの、それ以外の情報も共有できるような時間を確保する必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・取組目標などの掲示がされており、職員室全体で常に事故防止に努めている様子がわかる。 ・教職員が何でも言い合える雰囲気、皆でつくっていくことを期待している。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切に接している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての子が「笑顔いっぱい」で学ぶことができるよう、多くの教職員が連携して指導を行い、子供や家庭に寄り添った指導を心掛けている。 ・仲良しアンケートを定期的に実施し、困りごとの解決を家庭と連携して行っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な言葉遣いで児童を指導することは難しいと思うが、校内でロールモデルを見つけて、理想像に近づけてほしい。 ・皆さん、あたたかさや優しさからの指導をしている。それゆえの厳しい言葉だったりだと思います。先生方の指導のもと、素直な坂小児童となることを楽しみにしています。 ・小中共に子供に対する基本的姿勢の在り方として、常にA評価になるよう努力が必要である。
	9	新学習指導要領に則って、授業改善に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、研究授業を毎月行ってきた。少しずつではあるが、教師の観る力が育成されてきた。 ・今後は教科の専門性を高められるよう、研修や教材研究の時間がより確保できるようにしていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・試行錯誤を繰り返しながら改善されているのを感じる。 ・研修→実践→反省(意見交換)→実践の繰り返しが必要である。
学習環境	10	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・外部から指導者を招聘した研修会を実施し、全教職員で特別支援体制の充実を図っている。 ・校内通級を実施する等、児童の実態に即した支援ができるよう、学校全体で取り組んでいる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルな視点で教室内の掲示がされている教室が多い。 ・市内全小中学校の課題ではないかと感じています。 ・研修や特別支援学級と通常学級との交流もよく出来ていると思われる。
	11	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検をはじめとした日常の点検により、素早く修繕等に取り組む、教育環境が整備されてきた。 ・施設の老朽化が著しい部分もあるので、教育委員会と連携し、児童が安全に安心して通えるよう計画的な修繕をしていく必要がある。 ・日々の清掃活動の充実をさらに図っていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の汚れが目立つので、日々の児童による清掃だけでは難しいのかもしれない。保護者や地域を巻き込む機会を検討してみてもどうか。見えない部分の点検等にも気を付けてほしい。 ・清掃が衛生面、美的面だけでなく、精神的な意味を持つことも意識してほしい。
家庭・地域との連携	12	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。(市共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・マメールの活用により、防犯や学級閉鎖、学校応援団の募集等、迅速に情報を家庭に提供することができた。 ・今後も学校だよりや学校ホームページ、クラスルームを活用し、学校での児童の様子等を家庭・地域に提供し、開かれた学校づくりをさらに推進していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページやメール等、あるものを有効に活用されている。 ・ホームページにわかりにくい部分がある。
	13	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校応援団には、多くの活動で支援をいただいた。様々な地域人材に協力をいただくため、今後も活動内容や募集を発信していく。 ・多くの授業において地域の人材をゲストティーチャーとして活用できた。 ・150周年記念行事を通じて、地域との繋がりが例年より深められた。この繋がりを継続することが重要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員とは意見交換会だけでなく、行事公開も何度かあり、とても良い関わりを持っていると思う。 ・学校応援団の活動内容を、定期的に見直す必要がある。 ・学校、家庭、地域との連携は難しいと思うが重要だと思う。 ・協力している会社や商店への表敬訪問を学期に一度位は行い、本気度を伝えていきたい。
小中一貫教育	14	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は小中連絡会や中学校体験入学などを実施した。互いの教職員が児童生徒の様子を知るだけでなく、課題や成果についても共有できた。 ・中学校へ進学して困らないよう、小学校でできる準備をおきたい。小学校では何がどのように準備できるのか等、具体的な情報交換を行い、どんなギャップにも対応できる児童の育成を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生による中学の合唱祭の見学が復活できたことはよかった。児童の見学する態度は、とてもよく感心した。 ・年に1度でも小中間で教科別授業の見学などの機会があってもよいのではないかな。 ・しっかりと考えられていると感じる。近いうちに小中との情報交換会や交流など深まることを期待しています。 ・特に個別対応が必要な児童の情報交換、最低限共通させたい指導事項の連携ができるとよい。